

# 豆狸の寝言

副会長 三原幸二

玄関先に一つ、綺麗な花を置いたり、花を生ける鉢に凝ったり、丹精をこめて四季おりおりの草花を育てる。

これは、家族はいうまでもなく、道行く人々の眼を楽しませ、心を安らげる。これを“ガーデニング”という。今、このガーデニングが、人々の間で楽しまれ始めている。

また、少し前までの写真の世界では、女性の裸の美が随分もてはやされていたが、今では、ネイチャーへと視点は動きつつある。いわゆる、動植物、山や川などといった自然を撮す時代へと変化していつているのだ。

ひと昔前、私達は花を観るための時間も削り、子供も、大人も皆、勤勉、勤労にと励み続けた。

その結果、殺伐とした社会は優しさを忘れた心ない人間を産み出してしまったように思う。

先に述べたガーデニングや、自然の美を撮す、<sup>うっ</sup>ということは、人間の豊かな心を育てることへの大切な一歩なのではないだろうか。

私達は、いま少しでも人の心の痛みや苦しみを分かちあえるような、そしてより自然にもどるべく努力をしなければならないのではないだろうか。

皆が、花を愛でることのできる優しい心を取りもどせた時には、神戸のあのような事件は、二度と起こることはないであろうと思う。

(草花を愛でる) 1997年執筆

